

# さいたま市防災カルテ

## 東浦和中学校区

### ①学区の概況と課題

#### ◆学区の概要

【位置】 緑区の中央部南寄りに位置し、南区と隣接している。  
 【土地利用】 学区内には住宅地が広がっており、西部に消防署がある。  
 【交通】 学区の西部に国道463号が走っている。

#### ◆学区の位置



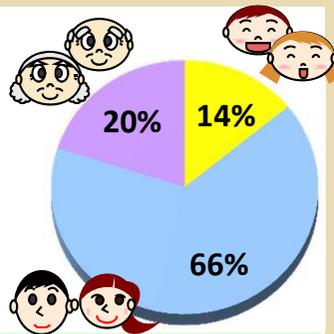
#### ◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.2)	6弱 (5.7)	6弱 (5.7)			
最小震度	6弱 (5.8)	5強 (5.4)	5強 (5.4)			
死者	23人 (0.1%)	1人 (0.0%)	1人 (0.0%)			
負傷者	138人 (0.7%)	25人 (0.1%)	20人 (0.1%)			
避難者	2,802人 (14.1%)	130人 (0.7%)	145人 (0.7%)			
全壊建物棟数	830棟 (12.4%)	18棟 (0.3%)	20棟 (0.3%)			
うち焼失棟数	546棟 (8.2%)	5棟 (0.1%)	10棟 (0.1%)			
半壊建物棟数	982棟 (14.7%)	219棟 (3.3%)	235棟 (3.5%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

#### ◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	東浦和中学校区	全市平均
総人口	19,827人	
人口等		
0-14歳	2,789人 (14%)	(14%)
15-64歳	13,065人 (66%)	(67%)
65歳以上	3,974人 (20%)	(19%)
人口密度	7,349人/km <sup>2</sup>	5,766人/km <sup>2</sup>



【地震】 さいたま市直下地震では最大震度6強となっており、**地区の25%強が全壊・半壊の被害**を受け、**地区の10%弱にあたる建物は焼失**する恐れがある。

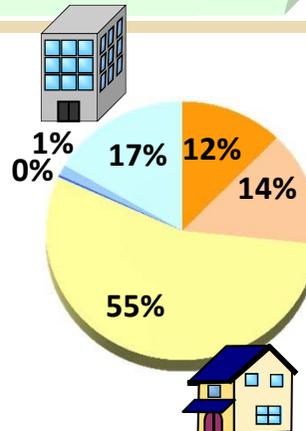
【水害】 他の地域と比べ、**相対的には浸水被害の危険性は低い**。

#### ◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	東浦和中学校、中尾小学校、プラザイースト
一時・広域避難場所	
市・区役所等窓口	緑区役所
消防署・出張所	緑消防署
警察署・交番	中尾交番
救急病院	
応急給水場所	東浦和中学校

#### ◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	東浦和中学校区	全市平均
総建物棟数	6,689棟	
建物		
木造(昭和46年以前)	818棟 (12%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	964棟 (14%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	3,692棟 (55%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	18棟 (0%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	88棟 (1%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,109棟 (17%)	(21%)



#### ◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

【その他】 地区の南側において**火災の危険性が高い**地域があるものの、地区の状況や被害想定からは、他の地区と比べて災害の危険性が高いとは言えない。しかし、被害想定は一定の仮定の下で作成したものであるため、地域の防災意識を高く維持し、個人、地域が行政と協力して着実な防災対策を行っていく必要がある。

人口割合は全市平均とほぼ同等である。

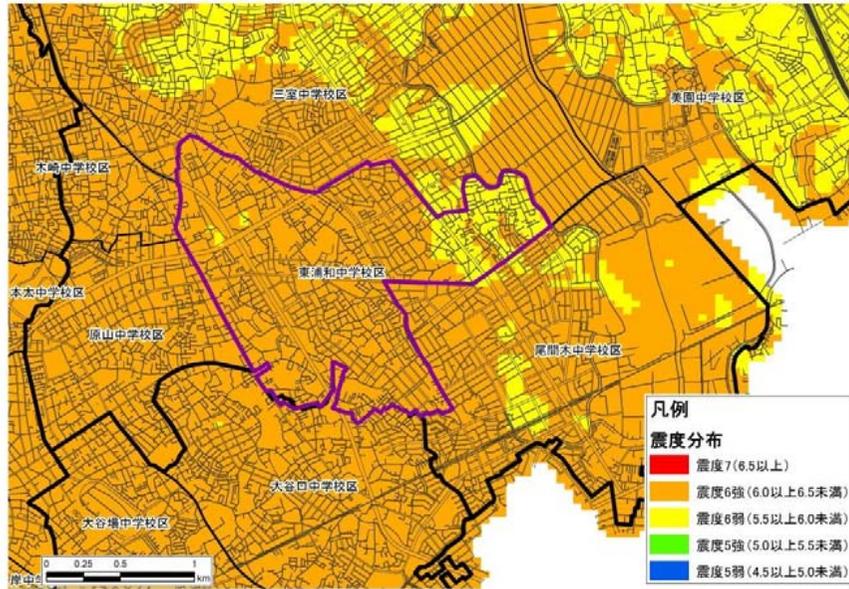
全市平均と比較すると、**新しい木造建物の割合が大きい**。

# ②さいたま市直下地震の想定 **さいたま市防災カルテ**

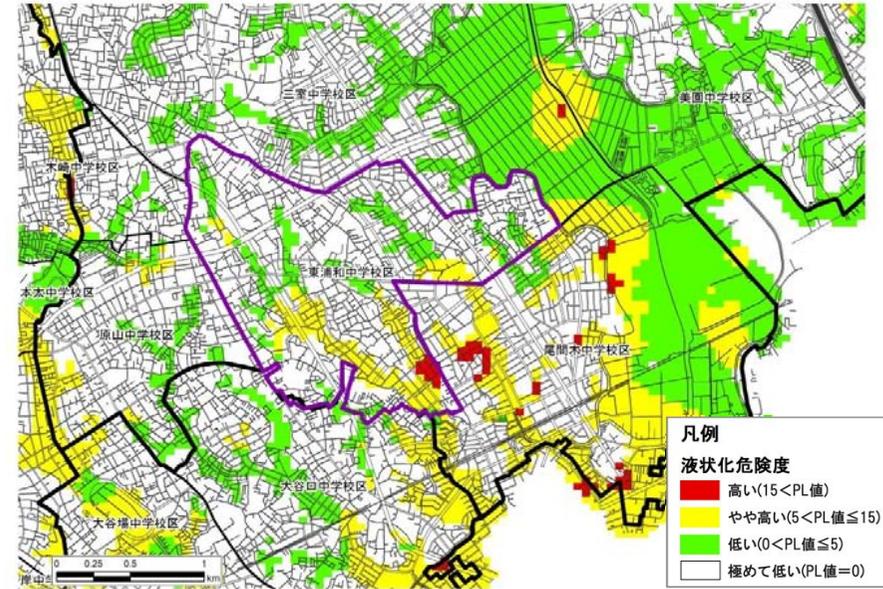
## 東浦和中学校区



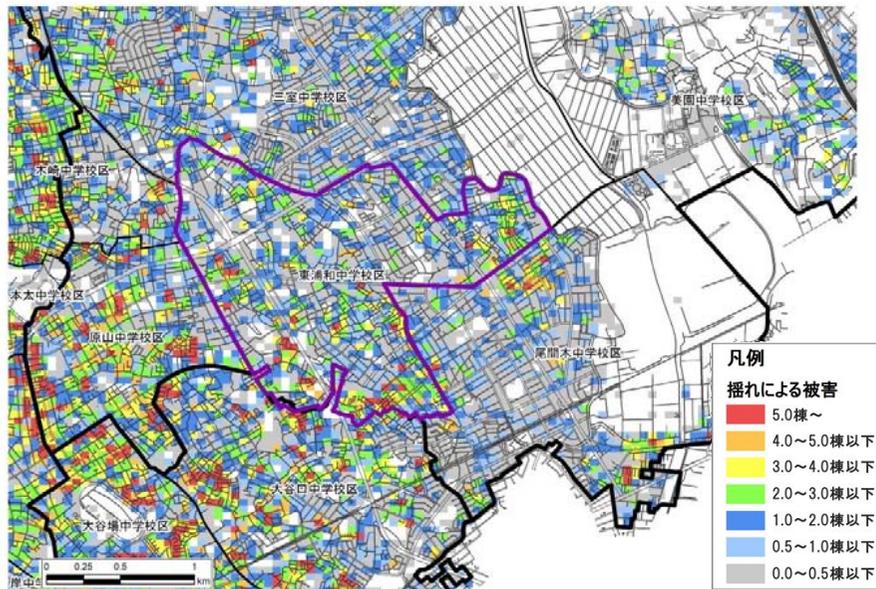
震度分布図



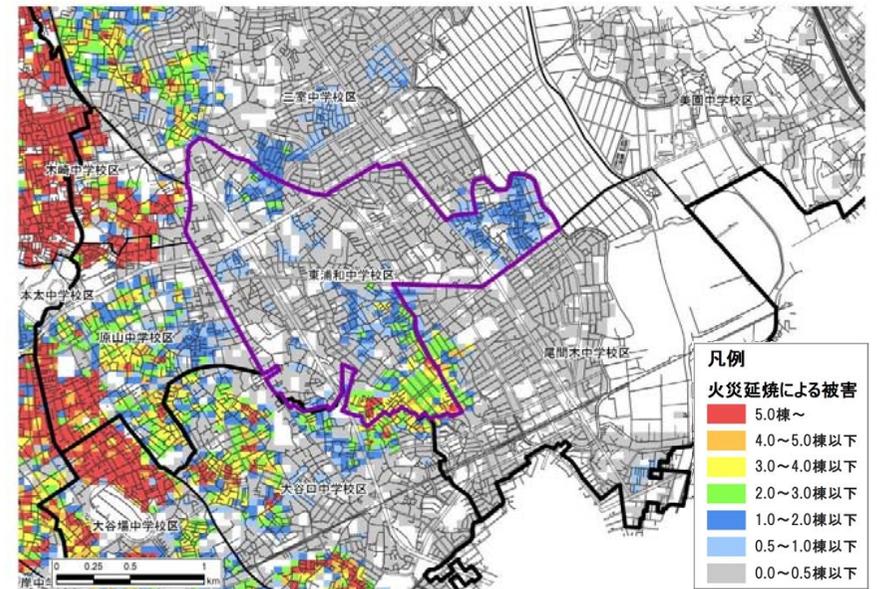
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

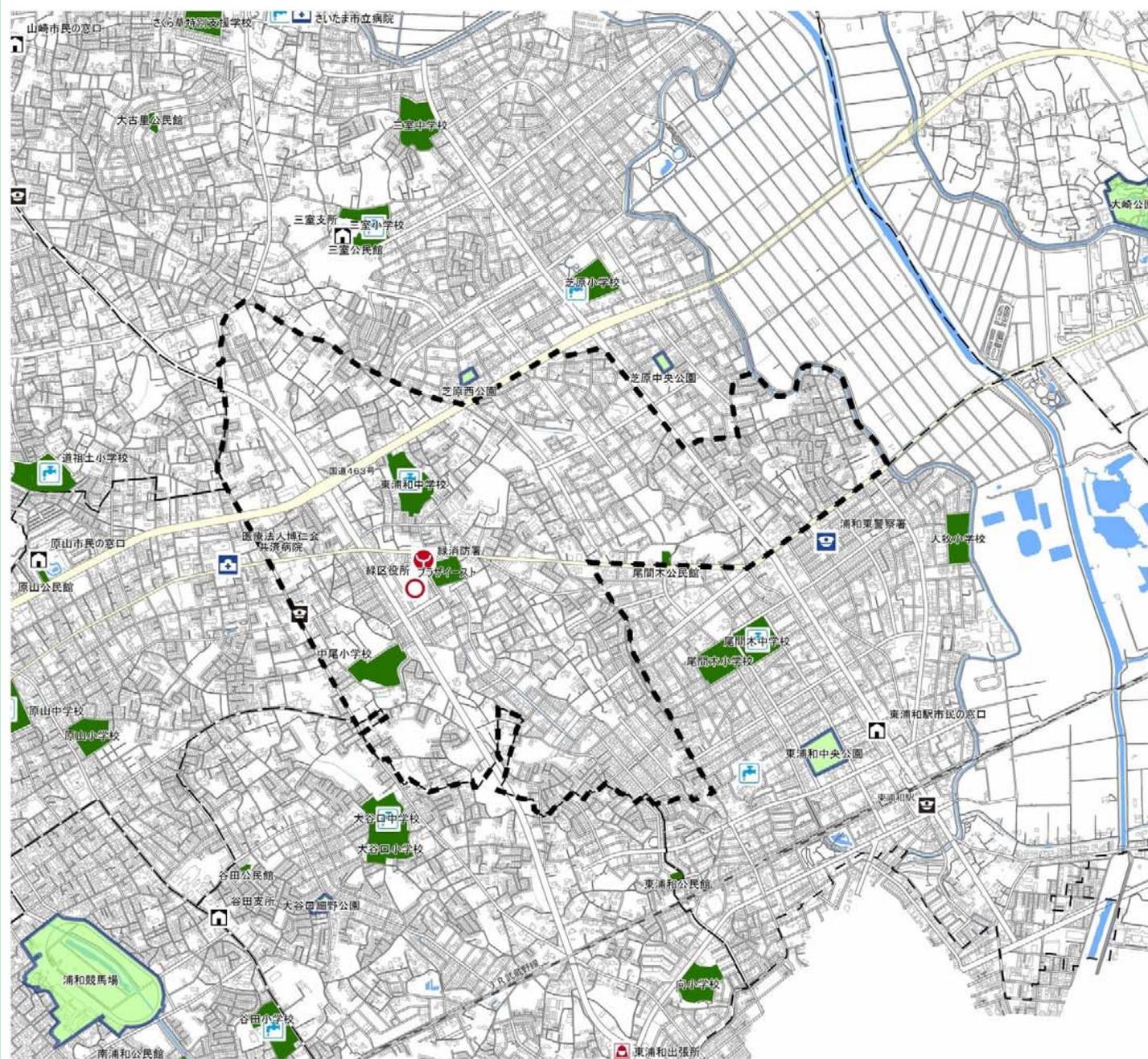


本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみましょう。

### ③防災マップ

# さいたま市防災カルテ

## 東浦和中学校区



**凡例**

	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

